

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

会 議 録		
会議名	第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会会議	
日 時	平成29年6月10日（土） 午後2時15分から午後5時	
場 所	北名古屋市役所 西庁舎 4階 403会議室	
出席者 及び 欠席者 (敬称略)	出席委員	池山 健次 犬飼 広昭 江口 照美 太田 稔 河口 牧子 佐藤 要 清水 孝司 杉山 晃 高柳 利清 寺田 美千子 丹羽 裕美 橋本 豊子 平松 貴美子 松本 正子 溝口 哲夫 (15名)
	欠席委員	無し
	策定委員	教育長 市民健康部長 福祉部長 教育部長 教育部参事 (5名)
	作業部会員	市民健康部次長兼健康課長 福祉部次長兼高齢福祉課長 教育部次長兼生涯学習課長 教育部副参事兼学校教育課長 教育部スポーツ課長 (5名)
	事務局	経営企画課職員2名
傍聴人	無し	
内容	1 部会長あいさつ 2 第2次北名古屋市総合計画基本計画分野別計画 素案に対する意見等について 3 会議録の確認について 4 福祉教育部会の開催日程について 5 その他	

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

発言者	審議内容
事務局	<p>■開会</p> <p>皆さん、こんにちは。審議会に引き続きまして、ご出席いただきありがとうございます。只今より、第2回北名古屋市総合計画審議会 福祉教育部会を始めさせていただきます。</p>
事務局	<p>1 あいさつ</p> <p>審議に入ります前に、部会長より、ごあいさつをお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。</p>
部会長	<p>大変、不躰でございますけど、座ってあいさつをさせていただきますので、よろしくお願いいたします。それから、委員の皆様方も、市の担当部局の方もご発言は座ったままでお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>前回、5月27日に開催されました第1回の会議におきましては、市から示されました素案を受けまして、委員の皆様方には建設的な発言を積極的にしていただきまして、誠にありがとうございました。</p> <p>また、それに対しまして、市の担当部局及び事務局からは、それぞれ個別に丁寧で真摯なご回答をいただきましてありがとうございます。全体的にとっても活発な審議がとり行われたと感じております。</p> <p>さらにそれを受けまして、基本計画の分野別計画について、5月31日を期限とし、事務局から文書で意見の提出を求められましたが、先ほどの審議会にて岩崎会長からのごあいさつにもあったとおり、福祉教育部にかかわる意見が39件、それを含めて全体で156件の意見が寄せられたということでございます。</p> <p>私も正直、この短い期間でこんなにたくさんの意見が寄せられましたことに対しまして、実はちょっと驚いております。また同時に、非常に短期間にこの意見を整理されまして、処理をし、本日の資料としてまとめあげられました事務局のご努力にも敬意を評したいと思っております。ありがとうございます。いずれにいたしましても、委員の皆様方、市の担当部局の皆様方、本当にご苦労様でございました。</p> <p>そういった状況を受けまして、これから第2回部会を始めるわけですが、部会の取り回し役といたしまして、皆様方の熱気を感じながら、この会議に臨んでおります。それについていけるかどうか、ちょっと私、不安でございますけど、とにかく何とか役目を無事に務めさせていただきたいと思っております。皆様方のご協力をお願いしたいと思います。</p> <p>以上で、開会のごあいさつとさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

事務局	<p>ではここで、第1回目の会議にご欠席された方より、ごあいさつをいただきたいと存じます。高柳副部長をお願いします。</p>
高柳副部長	<p>高柳です。よろしくお願いします。第1回会議は、公務が重なり、私ども社会福祉協議会の、地域において福祉分野で活躍しておられる方のプレゼンをやっておりまして、この会議には欠席をさせていただきました。申し訳なく思っております。</p> <p>そして、副部長というような重い役をいただきまして、務まるかどうか正直心配ですけれども、会長さんの補助を一生懸命全うしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、A委員、お願いします。</p>
A委員	<p>Aと申します。どうぞよろしくお願いいたします。第1回会議は欠席いたしまして、大変申し訳ございませんでした。本日いただいた第1回会議録を読ませていただきまして、しっかりと復習し、何かお役に立てることがあればと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。これより、議事の進行につきましては部会長に議長を務めていただきますので、よろしくお願いします。</p> <p>なお、会議の運営に当たりまして、1時間経過を目途に休憩を取っていただくよう部会長にお願いしておりますので、皆様、ご協力をお願いします。では、部会長、よろしくお願いします。</p>
部会長	<p>傍聴人は。</p>
事務局	<p>ございません。</p>
部会長	<p>欠席委員については。</p>
事務局	<p>ございません。</p>
部会長	<p>全員出席ということでございます。</p> <p>それでは、総合計画審議会条例第6条の規定により、全員出席ということで、過半数にももちろん達しておりますので本会は成立いたします。</p> <p>最初に、事務局から、本日の配布資料を確認していただきたいと思っております。</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

事務局	<p>本日の配布資料を確認させていただきます。</p> <p>次第、席次、出席職員名簿、6月10日資料①、6月10日資料②、会議録の確認について、第3回審議会部会の通知文、以上7点です。</p>
部会長	<p>2 第2次北名古屋市総合計画基本計画分野別計画 素案に対する意見等について</p> <p>それでは、次第に基づき、会議を進めさせていただきます。</p> <p>「議題(1) 第2次北名古屋市総合計画基本計画分野別計画 素案に対する意見等について」、事務局から説明を受けることにします。よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>説明させていただきます。第1回部会において、限られた時間の中で各施策の「現状と課題」を中心に説明させていただき、ご意見がある場合に「意見書」を提出していただくようお願いしました。短い期間の中で、多数のご意見をありがとうございました。</p> <p>「6月10日資料①」の表紙をめくって、ご覧ください。福祉教育部会で説明させていただき意見として、39件ございます。</p> <p>下段の「2 意見の活用」をご覧ください。委員の皆さんからいただいた意見について、限られた時間の中で、効率的に議論を深めていただくために、「①～⑥」の選択肢を設定し、「対応の方向性」を統一的に示した資料としております。</p> <p>「対応の方向性」の「①～⑥」の概略を説明させていただきます。</p> <p>「①と②」については、委員の皆さんのご意見を踏まえ、総合計画の文案を修正していこうと考えている意見となります。「③」については、総合計画の文案に入れることは困難な意見です。「④」については、事業の実施段階で判断していこうと考えている意見です。「⑤」については、意見の趣旨が既に総合計画の中に盛り込まれていると考えている意見です。「⑥」その他の意見として、今後調整が必要な意見等がございます。</p> <p>「6月10日資料②」の表紙をめくって、ご覧ください。市議会の意見となり、「健康福祉分野」が15件、「教育・文化分野」が2件ございます。</p> <p>本日は、施策の順に、この2つの資料を使って、議論を深めたいと考えておりますが、事務局でお示した「対応の方向性」についてご審議いただいた後、その議論の内容を踏まえ、総合計画素案の修正案を事務局で作成し、次回7月1日の部会でご審議いただく予定となっておりますので、よろしくお願いします。</p> <p>なお、資料の説明については、本来ですと、意見を全て読み上げ、回答も担当部から行うべきですが、大変たくさんの意見をいただいております。</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

	<p>ますので、施策の単位で、委員の皆様からいただいた「意見」と市の「対応の方向性」の概略を私が説明します。</p> <p>その後、委員の皆様から、ご意見やご質問をお伺いする方法で進め、詳細な説明や更なる回答が必要な場合に、担当部より回答させていただきます。</p> <p>誠に勝手なお願いとなりますが、10施策ありますので、1つの施策の議論時間を概ね15分程度を目安に進めさせていただきたいと、部会長にお願いしておりますので、皆様、円滑な会議運営にご協力をお願いします。</p>
部会長	<p>只今の説明につきまして、何かご質問ございますか。</p>
B委員	<p>質問ではないのですが、資料の訂正について、「6月10日資料①」のNo.18について、社会福祉協議会の車が5台とありますが、これは4台です。</p>
事務局	<p>では、後ほど訂正をお願いします。</p>
部会長	<p>それでは、まず進めていただきましょう。「1-1健康・医療」です。</p>
事務局	<p>1-1健康・医療について、「6月10日資料①」では3件の意見、「6月10日資料②」では4件の意見がありました。</p> <p>資料①の1ページをご覧ください。委員の皆さんから3件の意見をいただいております。概略を説明させていただきますと、まず主要施策のところですが、主要施策の柱立ての中で「健康づくりに取り組みやすい環境の充実」を挙げており、主な取組に「早朝ラジオ体操会の支援」や、「ウォーキングマップの充実」というような項目を追記したらどうかという意見でございました。こちらについては、既に要素として総合計画の中に盛り込まれていると考えております。水色表紙の資料3を見ていただきますと、そちらに要素が盛り込まれているという回答をさせていただきます。</p> <p>2番目の項目について、主要施策「かかりつけ医・薬剤師の普及」に該当しますが、これは意見というより感想と捉えておりますが、60%の人がかかりつけ医がいるという調査結果について、驚いたとの意見でございました。それについては、今後も啓発に努めるという回答をしております。</p> <p>3番目の主要施策「救急医療体制の充実」に、救急車を悪用する人が増加していることについての対応策はできているのか、という質問でございました。こちらについては西春日井広域事務組合が広報で周知をし</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

	<p>ております、という回答としております。</p> <p>市議会からの意見、資料②の7ページをご覧ください。No.31の意見について、これは前回の部会で同様に意見がありましたが、「施策が目指すまちの姿」の表現の仕方について、「暮らしています」ではなく、「暮らします」という表現の方が望ましい、という意見がありました。その意見については、同じ説明となりますが、まちの状態を表したいと考えておりますので、この表現が浸透していくよう、今後努めていきたいと思っております。</p> <p>No.32について、市民意識調査指標について、「施策がめざすまちの姿」で、「すべての市民が健康の維持増進を意識して暮らしています。」とありながら、目標値が低いのではないかという意見がございました。それについて担当部局で見直し、目標値を修正するということでお示ししております。</p> <p>No.33について、取組指標の「3歳児健康診査受診率」というのが、指標として掲げるには相応しくないのではないかという意見に対し、当局としては3歳児の健診は重要ということから指標として設定しているため、変更しないとする回答です。</p> <p>No.34も取組指標について、各種健診の指標を設定すべきではないかという意見に対し、再考いたしまして「生活習慣病の保有率」という指標設定していく考えでございます。以上でございます。</p>
<p>部会長</p>	<p>只今、事務局から1-1健康・医療の分野について皆様方から寄せられた、あるいは市議会からございました意見について説明がありましたが、ご意見があれば、ご発言ください。</p>
<p>C委員</p>	<p>資料①のNo.1ですが、これは確かに黒丸の所に書いてありまして、そこに含まれると思いますが、その下の「主な取組」の所に、がん検診、特定健診、細かい項目が並んでいます。よって、こういうたくさん並んでいる中だと、意見書で提出した取組が必要なのではないかということで私は意見を出しました。この主な取組が、全く無ければ、ここはそのまま良いのですが、これだけ細かい取組を並べた中だと、細かい取組が抜けているのが気になって、これはやらないのではないかと思うようになります。</p>
<p>部会長</p>	<p>市民健康部長、お願いします。</p>
<p>市民健康部長</p>	<p>健康づくりに関して保持増進を進めていただいている団体が、大きく4つあります。その他に、ボランティア団体の方たちもたくさんおられて、その方たちが一緒になって健康課のお手伝いをお願いしていると</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

	<p>ころです。そのため、一つひとつの事業を掲載してしまいますと、全ての事業を網羅しないといけないものですから、ご意見のラジオ体操やウォーキングなど一つひとつを捉えるのではなく、全体を捉えております。なお、検診については、少し意味合いが変わりますので、詳細な取組を掲載しておりますので、ご理解いただきたいと思います。</p>
C委員	<p>ちょっと理解できない。</p>
部会長	<p>理解ができないということですが、担当部局からの補足説明でございました。</p>
C委員	<p>答えは答えとして受けますが、主な取組に掲載してある内容等からして、ちょっとおかしいなと思うのが、私の意見です。</p>
部会長	<p>はい、分かりました。では、Cさんのご意見を承るということにします。</p>
市民健康部長	<p>ご意見に対して、主な取組の中に、「ウォーキングイベントの実施」が入っていますので、この辺を精査させていただきまして、再度回答をさせていただきます。</p>
部会長	<p>ということよろしいですか。</p>
C委員	<p>はい。</p>
部会長	<p>他にございませんでしょうか。本日は、たくさんの意見が出ております。多岐の分野についての説明がありますので、効率よく進めていきたいと思っております。特に無いようでしたら、次に進ませていただきます。</p> <p>それでは、1-2 地域福祉について。</p>
事務局	<p>次の施策に行く前に、只今ご意見をいただいたように、本日の会議の中で決まるものと、決まらないものがございます。そういった事案は本日の議論を踏まえつつ、次回の部会にて、どの様に対応するかを改めて説明させていただきますので、ご意見をそのような形でいただければと思っておりますので、お願いします。</p> <p>1-2 地域福祉について、「6月10日資料①」では4件の意見、「6月10日資料②」では2件の意見がありました。</p> <p>主要施策「地域で支え合う環境づくり」の中の方針について、こちらに「向こう三軒両隣」という言葉、その考えを取り入れて欲しいという</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

	<p>意見をいただきました。この意見については、既にその言葉の要素を取り組んでいるという考え方で、更なる支援体制を整備すると対応の方向性を示しております。</p> <p>No.5について、主要施策「ボランティア活動の推進」の主な取組について、ボランティアは社会福祉協議会だけではなく、社会福祉協議会に属さないボランティア活動の支援が必要とのご意見をいただきました。これについては、事業実施の段階で検討していく対応の方向性としております。地域福祉の施策では、福祉分野の枠組みの中で反映していますが、ボランティアという言葉ですと、教育分野を始め、市民協働の関係などと結びついていきますので、それら全てを網羅することは難しいところです。地域福祉の分野では、ボランティアを福祉の分野に限るような方向性としております。</p> <p>No.6について、ボランティア活動の推進について、作業内容を書いたチラシをつくり、口コミで募集したらどうかという意見であり、その理由として、誘われることが無かったとした意見でした。この意見について、いろいろな広報活動、さらなる事業実施の中で検討していきたいとしております。</p> <p>No.7について、取組指標にボランティアセンター登録団体以外の団体数を指標に入れたらどうかと意見をいただきましたが、この意見についても地域福祉という括りの中で限らせていただく回答としております。</p> <p>市議会からは1件、「施策がめざすまちの姿」の「できています。」の表現について、意見をいただいております。しかしながら、今回の総合計画では、この表現で統一しており、この表現が浸透していくように説明していきたいと考えております。以上でございます。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。只今、地域福祉の分野について、皆様から出された意見についての説明、あるいは対応の方向性を説明いただきました。何かご質問やご意見がございましたら。</p>
C委員	<p>資料①のNo.7ですが、この回答が福祉部のみのため資料に示された対応の方向性になったと思いますが、例えば、ボランティアについて、生涯学習でやっている北名古屋市体験ボランティア活動支援センターというのがあり、かなりいろんな人が登録してやっているものがあると思います。そこでは、いろいろな活動の範囲が変わってくるのではないかと思います。</p> <p>また、主要施策③「ボランティア活動の推進」に関することですが、実は、私がその他の所に行きだしたのです。社会福祉協議会に属さない、生涯学習でやっているボランティア活動支援センターです。同じボランティアという名前を使って市がやっている中に無かったので、教育部系</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

<p>部会長</p>	<p>のため、ここには含まれないとは思いますが、ボランティア登録団体というのは、その社会福祉協議会だけではなくても、そういうような生涯学習でもそのようなものをされています。名前もボランティア活動支援センターという立派な名前がついており、そういうところで活動している人がたくさんおると思います。ただ範囲、分野は違うかもしれません。</p> <p>7番の件について、「計画に盛り込むことは困難です」という回答に対してのご質問ですが。</p>
<p>福祉部長</p>	<p>この施策には、福祉部で把握しているものを掲載させていただきました。ご意見の教育関係のボランティア、他の関係の団体、市役所に関係して把握できる団体については、ここの中に盛り込めないか検討させていただきます。</p>
<p>C委員</p>	<p>生涯学習課では、登録されている団体に案内するなど、取組を進めています。</p>
<p>部会長</p>	<p>教育部次長お願いします。</p>
<p>教育部次長</p>	<p>生涯学習課では、支援ボランティアセンターがありますので、福祉分野のボランティアに含めた場合、整合性が取れるか検討いたします。</p>
<p>C委員</p>	<p>分かりました。</p>
<p>部会長</p>	<p>よろしいですね。他に何かご意見、ご質問等ございませんでしょうか。</p>
<p>B委員</p>	<p>ボランティアについて、窓口について、今の説明でだいたい分かりますが、一般の方がボランティアって、どこにどういう風に行って良いのかというのがおそらく分からないと思いますので、できるだけ窓口は分かりやすく1つか2つにまとめた方が良いと思います。資料①の意見の「60代の高齢者でボランティアへのお誘いが1件も無かった。」というのは、待っている人なのでしょう。やはり窓口の分かりやすさが大事だと思います。ボランティアをやりたいがどこへ行ったら良いか分からない、という方もみえると思いますので、そういう方をうまく誘うために、ボランティアの窓口、福祉分野はどこどこだよ、という形が良いかなと私は思います。</p>
<p>部会長</p>	<p>福祉部長、お願いします。</p>

第2回北名古屋市長総合計画審議会福祉教育部会 会議録

福祉部長	<p>今のご意見に対しまして、福祉の関係ですと、社会福祉協議会がボランティアの窓口としてやっていただいております。他のボランティアとの絡みで、今ご意見のありましたとおりで、「こういうボランティアがやりたい。」という方に対して、窓口が一元化になってないというところに少し課題があると思いますので、今後検討していくべきと思っております。</p>
部会長	<p>以上となりますが、他にご意見ありますか。</p>
C 委員	<p>今言われるように、60代の高齢者の中にいろいろやりたい人がいるという意見がありました。こういう人が、どこへ行けば自分のやれる案件ができるかということが分かれば、参加する人もまた増えてくるかもしれないですね。私は、レクリエーション協会ですが、そういう人がいれば受け入れて、何ができるかによって参加できるものがあります。やはり、窓口が無いから、知らない方が多いと思います。</p>
部会長	<p>そういった意見が出ておりますので、ご検討をいただきますよう、お願いします。他に何かございますでしょうか。</p>
D 委員	<p>議会からも意見が出ていますが、「施策がめざすまちの姿」というところで、表現がちょっとおかしいと思います。市の回答として、「浸透していくように説明をしていきます。」ということですが、では、どのように説明をされるのか、誰に対して説明をするのか。こういう計画というのは、説明をしなくても分かるようにするべきではないかと私は思います。市民から聞かれてから、一つひとつ、それに対してこういう風に、こういうことです、ああいうことです、と説明をするということかもしれませんが、基本的に説明しなくても、例えば解説つけても良い。カタカナ表記についても解説をちょっと付けたりとか、やり方はあると思いますが、そもそもやはり説明をしなくても分かるようにするのが計画じゃないかと思えます。</p> <p>子どもは見ないかもしれませんが、老若男女、我々よりも二世も三世も上の方も見られる筈です。そういう方も意識して作らなければ、本当に机上の論理じゃないですけれども、ただ作っただけになってしまうのではないかと思いますので、再度検討いただきたい。</p> <p>表現を統一しているということですが、今現在でこのように統一されているということなので、今後、別の形で統一をしていただければよろしいのではないかと思います。</p>
部会長	<p>事務局、回答してください。</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

事務局	<p>ありがとうございます。ご指摘のとおり、そういった意見も、今回この様に資料を提出したことでお伺いできる意見だと思っております。今回、素案という形で委員の皆様には資料をお出ししておりますが、最終的には総合計画という冊子の発行、また市ホームページにも策定した総合計画を掲載していきます。その中で計画の見方についての解説を掲載していきたいと思っております。</p> <p>しかし、今、改めてのご意見をいただきましたので、他の部会からもそのような意見が出ているかもしれません。他の部会と調整しながら、再度、回答をさせていただきたいと思っております。ご意見ありがとうございました。</p>
部会長	<p>他には何か。無ければ、次に移らせていただきます。よろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>1-3 子育て支援について、「6月10日資料①」では1件の意見、「6月10日資料②」では4件の意見がありました。</p> <p>No. 8について、子育て支援の全体に対する意見とさせていただいておりますが、少子高齢化、人口減少、その様な中で子育てを支援し、子どもを増加させ、今後の高齢化対策を立案することを積極的に推進すべきではないかというご意見、いろいろな対策が必要な中、保護者の方が働きながら子育てをする、経済的支援、環境面の支援がもっと必要ではないかというご意見をいただいております。この意見について、事業実施の中で検討していくとし、市としては、保育所の待機児童を出さないように保育環境の拡充、前回の会議で話題となった児童クラブの増設など、子育てしやすいまちづくりを進めておりますので、さらに民間事業者とも協働し、子育て環境の整備を進めていきたい、と回答をさせていただいております。</p> <p>市議会の意見として、No. 36、保育ニーズがなぜ多様化していくのか、世帯の構成が変化している中で経済的負担が生じるのか、そのような疑問を提起され、公立での保育所運営を維持することが重要だというような意見をいただいておりますが、この意見については、計画に盛り込むことは困難と回答しております。全国的に今、保育所は私立で運営されているところも多くなっております。この動きも捉えながら市としては、安定した保育所の運営を図りたいとしております。</p> <p>No. 37について、少子高齢化の原因をしっかりと掴んで欲しいとのご意見、要旨としては、若い人が子どもをつくり、安心して育てられる、そんな環境が必要ではないかという意見をいただいておりますので、回答といたしまして、総合計画の中でしっかりと考えていきたいと対応の方</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

<p>部会長</p>	<p>向性を示しております。</p> <p>No.38について、事業ベースの意見となりますが、少子高齢化の問題は国がやらなくてはいけない、医療費、給食費の無料化などを競争していること自体がどうなのか、という疑問を呈しながらのご意見でございました。その意見については、今後の社会動向、社会環境の変化を捉え、議論していきたいと回答を示しております。</p> <p>No.39は取組指標について、「小学校内への児童クラブ設置数」が必然的な数値であり必要はない、という意見をいただきまして、削除する方向性としております。以上でございます。</p> <p>只今、子育て支援への意見に対する、対応の方向性について説明をしていただきました。只今のご説明につきまして、ご質問、ご意見がございましたら、ご発言いただきたいと思います。</p>
<p>E 委員</p>	<p>子育て支援の関係ですが、先回もお話させていただいたのですが、幼稚園では、お母さんたちへの支援のニーズがすごく比重が大きくなっていて、「子どもにとって」の支援という部分が随分抜けてきています。自分の子、ちょっと気になる子どものお母さんを、保健センターに紹介をさせていただいて、保健センターの方と特別支援の母子通園に見学に行く筋道を作ったのですが、お母さんが子どもをおんぶしたことがない、「おんぶって何ですか」というレベルだったというお話を保健センターの方にお聞き、今のお母さんたちはそういうレベルで、子どもにどう向き合ったり、どう付き合ったらいいのかわからない状況への支援ではなく、早くお母さんたちを就労させるような支援の方向になっていっています。子どもに向き合うところ、0歳から5歳までの間のお母さんたちの関わり方を、もう少ししっかり考えてやっていかないと、本当に子どもたち危険な状態にあるというのが現実なのです。先程、3歳児健診の話もありましたが、結局、自分の子が多動などで健診ができない、でも、そのままにしまい幼稚園に入園したりします。幼稚園でみてもらえるから多動への対処が必要ないという考えのご両親が、今、すごく多くなっているのです。3歳だったら人の物を取ろうが欲しいものを取るのは当たり前、そういう考えの中で教育と保育という部分の中で、先回、大阪の先生とお話したのですが、大阪の豊中の地域の幼稚園では、「そういう方は保育園に行ってくださいと、私たちはお話をしています。」というお話をされたのです。北名古屋市の子が、大阪に引っ越すものですからちょっとお話をさせていただいたら、「このレベルの方だと保育園に行ってくださいと言うのですよ、先生」と言われました。よって、北名古屋市はすごく手厚いなと思ったのです。</p> <p>そういう子育ての中で、働き方とか、お母さんたちの環境という部分</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

部会長	<p>の支援に向いているのが、私としては子どものための支援という目線がすごく無くなっているのが心配なので、そこのところはどういう方向に位置づけていただけるのかなということを心配しています。</p> <p>市民健康部長お願いします。</p>
市民健康部長	<p>今、言われるように、昔と違って核家族化が進んだ関係で、やはりお母さんが一人で悩んだり、育て方がわからないという方がいらっしゃいます。それで北名古屋市といたしまして、今年度から「北名古屋市子育て世代包括支援センター」、これを母子保健型として保健センターに設置いたしました。これにより、妊娠期から子育て期にわたるまで、母子保健や育児に関するさまざまな問題について、保健師が専門的な見地から、健康課、児童課、家庭支援課などの関係課と連携し、お母さん方を見守っていきたいと考えております。</p> <p>この取組は、これまでも行っていたのですが、より充実させるため、体制を整備し、進めていますので、お母さん方に子育てをきちんとやっていただけるような指導に努めたいと考えております。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。今の回答について、何かありますか。</p>
E 委員	<p>その部分の中で、いろんな所で子育て支援として未就園児教室をやっているのですが、保健師さんたちとつながって、その子の育ちのために情報交換ができるところが、今、無いのです。結局、私たちが、お母さんたちに医療的な専門家ではないのに、ただ、子どもを知っているということで情報を伝えています。そのため、保健師さんとお母さん方でこのようなつながりができると良いなと思います。入園してからしか保健師さんにつなげられない現状が有り、だから、なかなかそういう部分では、もう少し前の段階、未就園児の段階で、ある程度、何か持っている子というのは分かるものですから、検査につなげられるといいのかなと思います。</p>
部会長	<p>それに対して何かありますか。</p>
市民健康部長	<p>保健センターでは、出生から乳幼児健診や育児相談等で何度も母子に関わり、寄り添う支援を継続しております。特に3歳前後健診の中で発達等が気になるお子さんに対し、母子で参加していただく未就園児教室を開催し、保育園、幼稚園と連携し、その教室でのお子さんの様子については入園の際、保護者の同意を得て、適切な保育につながるよう入園先に情報提供をしております。保健師と幼稚園、保育園、お互い協力し</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

	ながら、連携を取りたいと考えておりますので、その都度ご相談いただければ対応させていただきたいと思っております。
部会長	ありがとうございます。他にございませんでしょうか。
F 委員	今、保育園は年齢制限があると思いますが、年齢制限が3歳ですか。3歳以下の幼児の保育について、NPO法人の保育所があると思いますが、これをどんどん増やしていただけるのか、現状維持をするのですか。
福祉部長	保育園では、0歳6か月からお預かりしています。現在、保育園に預けたいという方がとても多くて、公立の保育園だけでは預かりきれない状況がございまして、小規模保育施設というのを市が認可をし、現在、7箇所のNPO、株式会社及び民間の保育所で、0歳から2歳までの保育をやっていただいております。総合計画に記載してありますように、待機児童ゼロを継続したいということで実施しています。
F 委員	それで、数としては、今、現状の数でやっていくということですか。
福祉部長	はい、今4月1日現在では待機児童ゼロという形をとっておりますが、年度の途中ということになると、もう施設に空きが無い状態になり、4月まで待っていただくか、空きができるまで待っていただくという状況はございます。
部会長	ありがとうございます。他にありますか。
D 委員	今、E先生が言われた意見を聞いて思ったのですが、総合計画の構成として、現状と課題があって、その次に主要施策と書かれており、この現状と課題に対する主要施策ということで良いかと思うのですが、課題に対して、こういう施策を計画しますよということでよろしいですか。
事務局	はい。
D 委員	だったら、もっとその辺りをきちっと連携させて作ってほしい、というか我々委員が作るのですが、そういうことをちょっと思いました。と言うのは、先ほどのE先生のご意見、例えば、子育ての支援の所に関係機関が連携して相談ができる取組の掲載。課題に対する回答があれば、今後の方向性も具体的になるのではないかと、そんなことを思いました。

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

部会長	事務局、何かありますか。
事務局	<p>ありがとうございます。今、D委員のご指摘のとおり、現状と課題につきましても、現行の総合計画についての進捗状況、達成度を各部局で見直しましたところで、今の社会動向も踏まえ、それぞれの施策について現状と課題を黒丸で表記しております。施策の現状と課題を踏まえ、主要施策というような形で柱立てしております。しかし、ご指摘のとおり、すべてを網羅していないところもございますが、現状と課題を踏まえ、方向性を示しておりますので、部会での議論を重ねていただきながら、施策の内容を充実していきたいと考えております。</p>
部会長	<p>ありがとうございます。子育て支援について、他に何か。 無いようでしたら、高齢者福祉に進みます。なお、高齢福祉が終わりましたら、1時間を経過しますので、休憩に入りたいと思います。</p>
事務局	<p>1-4 高齢者福祉について、「6月10日資料①」では10件の意見、「6月10日資料②」では2件の意見がありました。</p> <p>No. 9について、現状と課題に、介護を担う世代が介護保険制度の理解が十分でないため、介護に伴う人が多い世代への介護保険制度の周知の必要性を追加したらどうか、というご意見です。この意見については、事業実施の段階で検討する方向性で、市ホームページや出前講座、パンフレット配布の実施など、もっと身近な場所で、相談場所を確保していくよう検討するものです。</p> <p>No. 10について、現状と課題に、高齢者の増加に伴い、現在のように病院で最期を迎えるには限界があるため、在宅で最期を迎える人の体制の整備が必要となるため、その辺のことを盛り込んでどうかというご意見でございました。その意見については、事業実施の中で検討するとしており、エンディングノートという表現もありますが、在宅医療、介護の研修会を通して普及をしていきたいとの回答の方向性を示しております。</p> <p>No. 11も現状と課題について、サービスにつながらない重症化した認知症の人の介護者がまだ地域に潜在しているため、身近な相談窓口を広く周知する必要がある、というご指摘をいただいておりますが、その回答として、既に計画に盛り込まれているとしており、認知症の方が今後増えていきますので、身近な相談窓口の設置と専門職の配置を検討中ですので、計画に盛り込まれているとしております。</p> <p>No. 12については、主要施策「高齢者の社会参加の促進」の括りにさせていただきましたが、市内には豊富な知識や経験をもって社会に還元したいと思っているリタイヤされた方がいる筈で、そういった方が、</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

軽作業とかそれ以外にも専門知識を活かして活躍する、そういった場、経験・知見を活かし社会参加をしていただくという方を登録するようなシステムや組織を作ってはどうか、ということでネーミングとして「シルバー人財バンク」のようなものを設立してはどうかとご提案をいただいております。また、補足として、中小企業も求人難のところもありますので、地元の中小企業で活躍できる機会を提供すれば、高齢者の方のためにもなるとともに、地元企業の活性化にもつながるとのご意見です。さらに、教員の働き方改革ということも現場で始まっていますので、そういった方が教育ボランティアという形で、やりがいとかを提供できるのではないかとのご意見です。この意見について、対応の方向性は、その他としております。働き方については、就労型とボランティア型というのがありますので、ハローワークとかシルバー人材センター、それぞれ、その方のご意向に沿ってご紹介をしているという趣旨での回答をさせていただいております。また、教育分野の回答としては、前回の審議会及び部会で話が出ているところですが、地域、家庭、学校、いわゆるコミュニティスクールの関係です。その関係で実施している分野ですので、ご提案いただいたことを、計画の主旨に反映しますという回答としております。また、放課後こども教室として、今市が重点を置いて取組を進めている事業がございます。そこではボランティアの方にも支援していただければ、このご提案いただいた内容と主旨としては合致していると考え、回答をお示ししております。

No. 13について、主要施策「高齢者の社会参加の促進」について、あまり浸透していない、もっとチラシ等で、活動参加のきっかけづくりの取組が必要ではないか、もっと周知すべきではないかというご意見でしたので、これについては、事業実施のなかで検討することとしており、様々な周知活動を進めていきたいとしております。

No. 14について、主要施策「地域包括ケアシステムの構築」、この地域包括ケアシステムの中の方針について、示された内容が大きすぎるのではないか、地域包括ケアシステムの全体の説明になってしまっているのではないかと、というご指摘です。また、訪問介護等の在宅医療の取組が見当たらないので、文中に、在宅医療の要素を入れてはどうかという、ご意見をいただいております。この意見については、総合計画は全体的な方針のため、各分野で作成する個別計画、介護の分野には、「介護保険・第7期介護保険計画」を策定中であり、その中で地域包括ケアシステムの関係とかを一体的に検討してまいりたいという回答にしております。

No. 15も地域包括ケアシステムの関係になりますが、認知症対策についてご意見をいただいております。施設になかなか入居が難しいため、スムーズに入居できるようにするための方策について、ご意見をいただき

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

ました。この対応の方向性として、地域包括ケアシステムは、高齢者の方が住み慣れた地域で生活し続けられるよう進めているところでございますので、先ほどの説明と重複しますが、今策定中の介護の計画、高齢者の関係の計画、その中で検討し、スムーズな入居については相談体制を強化していく、という回答にしております。

No. 16、取組指標について、「地域包括支援制度の周知度」を追加してはどうかというご意見については、先ほどからお伝えしている介護の計画を作っていくなかで、65歳以上の2,800人に対してアンケート調査を実施する予定としておりますので、その中でそういった項目を設定し、今後把握に努めるという予定で考えております。

No. 17、ご提案と捉えておりますが、超高齢社会を迎え、健康寿命の延伸が本当に大事である。病院では高齢者同志が顔見知りとなり、話に花が咲いている。そんな光景を見ると、市が、喫茶店の補助を出すと、結果的には医療費の削減につながるのではないかと。また、高齢者の方が外に出ることがすごく大事なことになるので、市内の各公共施設を使って月に1回程度、講演会などを実施すれば、外に出るきっかけづくりになるのではないかとご意見でした。この意見については、計画に主旨を反映するとしており、高齢者の方が引きこもらないように事業を展開していきたいということで、老人クラブへの加入、地域ふれあいサロンへの参加などをもっと幅広く実施し、PRをしていきたいと回答しております。また、高齢者の方の培った知識・技術、そういったものを発揮していただく場が大切になっていきますので、その辺の体制といたしまして行政と民間企業、市民の方で協働して作っていきけるような体制を研究したいとしております。

No. 18について、副部長から資料のミスについてご指摘がありましたが、社会福祉協議会で行っている無料での移送サービスが月に約300件依頼があるということですが、もっと広めるべきではないかというご意見をいただいております。この意見については、市と社会福祉協議会が連携してガイドブックを作成しているなかで、事業の周知を図り、PRしていきたいという回答にしております。移送サービスは、引きこもりを防いだり、外出支援を行うことに重要な取組というような対応の回答とさせていただきます。

市議会の意見として、No. 40となりますが、現状と課題について、高齢者が増えるなかで、子育て中の家庭において、高齢者の介護と子育ての両立支援が、今社会問題になっているため、記載してはどうかというご意見に対し、回答として、事業実施の中での検討としており、現在策定を進めている高齢者計画の中で、そういったことも検討していきたいとしております。

No. 41について、市民の方の視点が重要、この高齢社会をどうしてい

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

	<p>くのかという、もっと分かりやすい計画として、これなら安心して住んでいける、というようなことを市として発信して欲しいという意見をいただきました。その意見については、今回、総合計画を策定するにあたり、市民意識調査で、市民の方が満足しているかの視点で調査しており、市民の方の視点を捉えております。さらに個別の事業については、個別計画で示していきたいと回答しております。以上でございます。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。只今、高齢者福祉の分野について、委員の皆様よりたくさんの意見をいただき、その対応の方向性について事務局から説明いただきました。ご意見、ご質問ございますか。どうぞ。</p>
<p>G 委員</p>	<p>現状と課題について、これからの10年を考えると、団塊の世代が75歳に到達するということが、これから大きな社会問題として捉えていく必要があります。しかし、高齢福祉の分野に、そういう意識があまり入っていないと思います。これをざっと見ると、これで市民に伝わるのかと感じます。今、厚生労働省でも、病院から在宅へ、というようなことを言っています。最期の看取りを含め、そういう時代がくるということを市民の方たちにも知ってもらうことが重要であると考え、やはりもう少し項目の中に入れた方が良くはないかと思えます。露骨にいう必要はありませんが、そういう風に世の中が移行していくようなことを項目出しすべきではないかと思えます。</p> <p>それと、この文面からは介護予防を進めるというイメージに受け取れたのですが、もちろん介護予防は大事なのですが、この先10年を考えると、それではもう追いつかない状態になります。どうしても病気になってしまう方たちに対する部分を、もう少し盛り込んでもいいのではないかなと思いました。</p> <p>次に、地域包括支援センターについてですが、やはり実際に地域で聞くと、あまり知らないという声が多いです。それは一部かもしれませんが、窓口の数というより、やはりどれだけ相談窓口の利用が増えたのかという指標が必要ではないかなと思えます。どこへ相談したら良いだろうか、いずれも、具体策は、介護保険計画に入るという回答ですが、上位計画の総合計画に大まかな方針が取り上げられないほど小さな課題ではないのではないかなと思えますが、どうでしょうか。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。福祉部お願いします。</p>
<p>福祉部次長</p>	<p>何点かお話しいただきました。在宅について、今、国は、どちらかというと、施設から地域へ、というようになっていっております。しかし、その部分を露骨に出すと、市民の方もすぐに受け入れないといけないと</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

	<p>感じさせてしまう部分があります。その中で、特に計画に記載しております地域包括ケアシステム、医療・介護・予防・生活支援、そういうものを踏まえ一体的に行う地域包括ケアシステムということになっております。そういう中で、市としては、地域包括ケアシステムを推奨しながら相談機能の体制強化を図っていきたいと思っております。</p> <p>医療の部分になりますと、在宅医療の部分につきましては、特に市のみではなくて、医療機関ということで医師会との連携も必要になると思っています。特に地域包括ケアシステムを行っていくためには、医療との連携が非常に重要になってきます。先ほどから出ておりますように、今年度、第7期介護保険事業計画・高齢者福祉計画を策定する時期に当たっております。総合計画で示された方針に基づきまして、第7期介護保険事業計画・高齢者福祉計画において細かい部分を策定しながら進めていきたいと思っております。</p> <p>また、地域包括支援センターを知らない方が非常に多いのではないかとこのご指摘についてですが、地域包括支援センターは、今直営で東庁舎に1箇所あります。そのため、地域包括支援センターを知らない方がいらっしゃると思います。特に西地区の方については、利用に差が出ている状況もございます。その状況を踏まえ、現在、相談体制の強化を図っていくということで、地域包括支援センターを順次増設していくよう、検討を進めている最中でございます。</p>
部会長	<p>ありがとうございます。G委員どうぞ。</p>
G委員	<p>資料3の14ページ、高齢者福祉の主要施策に、在宅医療という言葉が一つも入っていなかったのが、意見を提出しました。回答は、「その他」でしたが、医療との連携が求められる中、地域づくりだけで収まる話なのか疑問です。捉え方として、地域づくりに、在宅医療も入っているかどうかなどということもあります。大きい取組や小さい取組が交っているのが、介護予防だったら教室をやるとか、具体的に示した方が分かりやすいと思います。そういう意味で、在宅医療という言葉は必要だと思っておりますが、いかがでしょうか。</p>
福祉部次長	<p>確かに先ほども説明いたしました、地域包括ケアの中に医療、在宅医療も含まれるとなっております。そういう中で、一番気にしなければならないのは、行政だけで医療の推進というものはできない部分がございます。西名古屋医師会を踏まえた中での取組が、今後の検討課題になってくると思います。そういう中で、先ほど来のお話になってしまいますが、今後、在宅医療を踏まえ、介護保険事業計画・高齢者福祉計画の中で、もう少し踏み込んだ部分を示していけるように考えていきたいと思</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

	<p>っております。本来ですと、総合計画に示す方が良いのかなという部分ではありますが、いろいろな連携を図っていく上では、今のところは地域包括ケアシステムの中に入っていると解釈し、大きな含みになってしまっていますが、そういう意味で、進めている最中でございますので、よろしく願いいたします。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。D委員。</p>
D委員	<p>取組指標について、「シルバー人材センター加入率」が載っておりますけど、シルバー人材センターがあれば「老人クラブ加入率」も加えて欲しいですね。</p>
福祉部次長	<p>実は、老人クラブ自体も、実際には入れていきたいところではございます。しかし、今の高齢者の状況というのは、日本老年学会のほうも高齢者の定義を65歳から75歳に引き上げるような案も出ております。それを踏まえ、働き方改革では高齢者の方たちも働く時期が、今後延びていく方向性が示されております。それを裏付けるように、実は老人クラブは、年々加入者が非常に減ってきています。いろんなところでPRはさせていただいていますが、現実には先ほど言いました、継続して働かれる方たちが増えてきたということが非常に大きく影響していると考えられます。そのため、下がることが見込まれる指標を掲載することは、なかなか難しいかなということで、今回は外させていただいたということでございますので、よろしく願いいたします。</p>
D委員	<p>下がるから載せないでは、これは後ろ向きな考え方だと思いますので、それも含めて、では今後、どうしていくのか。老人クラブには余暇を楽しむ、シルバー人材センターは働く。そういう大事な目的というか、意義がありますので、やっぱり老人クラブだけではないですけども、老後をどうしていくかという視点も必要だと思います。</p> <p>G委員も言われましたが、団塊の世代が75歳、やはり、そういうことを踏まえ、この計画の中に入れないと、今後10年維持できないのかなという様に思います。</p> <p>それと、こういう場で大きいことから小さいことまで、いろいろとご意見が出ていますが、やはり皆さん、それぞれ思いを持って審議会委員として入っていただいています。バランスもあるとは思いますが、ここへ出て言われた意見はできるだけ反映させていただきたいなど、こんな様に思っております。</p>
福祉部次長	<p>まず老人クラブの話ですが、人が減ってきているから掲載しないとい</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

	<p>うことでは無いです。というのは、「高齢者」の定義が今後どう扱っていくのかというところを、国で議論しておるところでございます。そうした中で、老人クラブの加入年齢を引き上げていくのか、逆にそのまましていくのか国の動向を窺っているという要素もあります。そのため指標として出すのがちょっと難しいと考え、今回は挙げていないということでございますので、よろしく願いをいたします。</p>
<p>部会長</p>	<p>はい。よろしいですか、他の方。まだ、ご意見出しておられない方、何かございませんでしょうか。</p>
	<p>無いようでしたらどうぞ、G委員。</p>
<p>G委員</p>	<p>取組指標について、レインボーネット登録率というのがありますが、これはまさしく医療と介護の連携具合を見るために挙げた指標だと思うのですが、主要施策では医療と介護の連携に触れていません。施策が無いのに評価指標だけが掲載されている状態で、あまり意味がないように感じますが、どうでしょうか。</p>
<p>福祉部次長</p>	<p>指標に対する内容は載っていませんが、実は在宅、医療、介護の連携の施策の中、主要施策の一番最後の下から2つ目に大きなくくりでしか載せてありませんが、ご指摘いただいたことを含んでいるというところでございますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>部会長</p>	<p>他の方、どうですか。</p>
<p>E委員</p>	<p>施策ではないのですが、実は、現実的に私の主人が、足が不自由で、外で倒れ発見されないまま3時間経過し、熱中症で、救急車で運ばれたのです。それを見つけてくれたのは、自宅の前にある小学校の窓から、生徒の方でしたが、最初に見たのは午前10時、大人だからすぐに起き上がるだろうと思われたと思うのです。でも午後2時くらいにもう一回見て、倒れているので、校長先生に話して下さり、校長先生が駆けつけて救急車を呼んでくださいました。</p> <p>やはり地域で見てもらおうということは大事だと、今回すごく感じました。政策ばかりではなく、自分がいる地域にいろいろな目があるということはすごい大事であり、本当にその小学生に感謝しています。熱中症での最高レベル、もう少し遅かったら危なかったと言われました。</p> <p>いろいろな方の目があるというのはすごく大事と感じており、より良い地域にしたいと思っています。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。ほかに何か。</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

C 委員	<p>15ページの指標について、3点ありまして、シルバー人材センター加入率、主観的健康管理、レインボーネットの登録率に、パーセントがありますが、これは年齢と調査方法ですが、どの様に調査されていますか。</p>
部会長	<p>福祉部、回答できる資料がありますか。</p>
福祉部長	<p>シルバー人材センターの加入率について、シルバー人材センターと連携し、おおよそ60歳以上の方を対象として、加入者を現状から増やしていける割合として目標値を立てております。次に、レインボーネットにつきましては、あくまで登録率になってきます。特に在宅で医療が連携をとることが非常に必要な方というところの中で、当然、本人が同意された方のみになりますが、そういう同意をされる方を順次増やしていけるように、特に今ですと、本当に重度の方が登録されている場合が多いので、そういう所をもっと広げていけるような体制をとっていただければと思います。それを踏まえ、北名古屋市で行っているレインボーネットについては、65歳以上の人を対象にしておりますので、ご承知をいただきたいと思います。</p>
C 委員	<p>主観的健康感とは、どういうものですか。</p>
事務局	<p>主観的健康感については、本日、正確な資料を持っておりません。休憩後に説明させていただきますが、概略といたしましては、調査対象者が、自分を健康だと思っているというようなアンケートです。高齢福祉課で、そのようなアンケートをとっております。</p>
部会長	<p>他にありますか。</p>
D 委員	<p>レインボーネットを初めて聞くので分からないのですが、何ですか。</p>
福祉部長	<p>分かりやすく言いますと、高齢者に介護や医療を提供するにあたり、医師会とケアマネジャー、或いは関係するサービス支援の事業所が連携して情報を共有する仕組みです。一例として、サービスの利用者が、自分の状態について同じことを何度もあちこちで説明をしなくても、それを見れば利用者の状況が分かるような、そういうものの構築を、今進めているところでございます。</p> <p>特に在宅医療において、重い方の登録が多い中、全てのことを網羅するものではないのですが、本人に同意を得ながら様々な情報を登録し、</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

	<p>パソコンの中でいろんな関係機関が共有し、連携を図れるようにするものです。</p> <p>どのような薬を使ったか、どんなサービスをしたか、また、今日は状態がこのように変わってきたなど、そうした情報を登録し、それを情報共有することで、円滑な支援を拡充していくというところがございます。</p> <p>また、その中に地図情報も入っており、医療機関、支援サービス事業所もすぐに場所が分かるような形になります。</p> <p>なお、先ほど言いました個人情報の部分については、登録をいただいた支援者が見る形になりますので、利用者からは見ることができないようになっており、その方をみてみえる方たちが情報の共有をしていくというネットワークでございます。</p>
D 委員	<p>何の登録率ですか。分母分子は何ですか。70%というところかなり高いように思います。例えば、市民8万5千人に対して、75%が登録をしているのか、あるいは65歳以上なのか、医療法人なのか。</p>
福祉部長	<p>医療施設です。一応、この登録率は、利用者のほうではなく、事業所或いは病院、歯科、薬剤師、そういうところの登録率を出しております。</p> <p>よって、これを100%に近づけられるようにしていくことによって、利用者の支援体制を整えていけるようにしていきたいということですので、お願いします。</p>
D 委員	<p>こういう用語について、解説はつきますか、見てわからない人は結構いると思います。</p>
事務局	<p>現状で素案の段階ですので、委員の皆様には、資料と用語解説を別々に配布しております。</p> <p>他にも、いろいろ難しい言葉が出てくると思いますので、その言葉に対する解説が見やすい冊子の構成にしていきたいのでご理解願います。</p> <p>こういったご意見をいただくことで、より分かりやすい計画を作ることができますので、ご意見ありがとうございます。</p>
B 委員	<p>少し気になるのですが、これは質問になるか分かりませんが、在宅医療、在宅医療と話に出っていますが、医療機関の体制が非常に気になります。その辺、現状どうなのか、疑問を感じます。</p>
福祉部次長	<p>一応、これは全部の市民の方が対象というわけではないですが、高齢部門といたしましては、今、既に在宅医療の連携会議というものを設け</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

部会長	<p>ております。医師、歯科医師、薬剤師、それと支援事業者、そういう方たちに集まっていたいただき連携強化の会議を開く中で、より良い支援体制の構築を進めている最中でございますので、よろしくお願いをしたいと思っております。医師会等々も入っておりますので、お願いします。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>特になければ、ここで休憩に入りたいと思っておりますけど、よろしいですか。では、10分間の休憩に入りまして、15時50分から開催します。</p> <p>・・・・・・・・・・休憩・・・・・・・・・・</p>
部会長	<p>15時50分になりましたので、会議を再開いたします。</p> <p>では、事務局、進めてください。よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>休憩前の質問について、主観的健康観について説明させていただいたかったのですが、正確に確認できない部分がありましたので、次回、改めて正確な回答をさせていただきますので、よろしくお願いします。</p> <p>1-5 障害者（児）福祉について、「6月10日資料②」で1件の意見がありました。市議会の意見として、No.42、障害者とその保護者の方も高齢化している現状と課題を記載し、その対策を施策として盛り込めないか、という意見について、障害者計画を策定していく中で検討していくという回答をしております。以上でございます。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。1-5 障害者福祉について、委員の皆様からご意見はありませんでしたが、市議会から意見がありました。何かご意見、ご質問ございましたら、お願いします。</p>
C委員	<p>市民意識調査指標について、「障害者等が地域で生きがいを持って暮らせるように支援したい。」とありますが、これは市民の割合、どういったアンケートの結果ですか。</p>
事務局	<p>今回の計画ではほとんどの施策に、市民意識調査指標が載っております。総合計画の策定に先立ち、市民の方がどう感じているか、満足度や現状、活動状況を把握するため、施策に紐づけることが可能な様々な設問を設定し、昨年度、市民意識調査を実施しました。その結果得られた割合を2016年度の現状値と設定しております。その中で、支援したいと思うかの設問に対する回答が44%、「そうしたい。」と持っているという現状値が把握できました。今後、同じ調査を2022年度、2027年度に実施し、割合を把握することにより、施策の進捗管理に利用</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

	<p>したいということで調査しました。今回の調査で、この現状値が分かったため、今後そう思っただけの市民の方の割合を増やしていくための目標指標として設定しております。</p>
C委員	<p>ちょっと今、聞き漏らしたのですが、調査方法は。</p>
事務局	<p>調査方法は、昨年、市民の方4,000人にアンケート調査票を送りました。</p>
C委員	<p>無作為ですか。</p>
事務局	<p>はい、無作為抽出です。</p>
C委員	<p>分かりました。</p>
部会長	<p>障害者福祉につきましては、その他特にご意見無いようですので、次へ進めさせていただきます。</p>
事務局	<p>1-6 社会保障について、「6月10日資料②」で3件の意見がありました。No.43として、取組指標の「特定健康診査受診率」、「特定保健指導実施率」は、1-1にすべきとのご指摘について、1-1と1-6が連携している部分があるため、バランスを考慮し配置していることから、1-6に掲載していると回答しております。</p> <p>No.44は、主要施策「社会保障の適正な運営」の主な取組について、奨励はがきの送付が、主な取組に値しないとご指摘をいただきましたので、文言を改めると回答しております。</p> <p>No.45は、子ども医療費の無料化の施策を求めるとご意見ですが、前回の部会の中でも回答をいたしました。医療費の無料化以外に、ハード面とソフト面の様々な環境整備を進めておりますので、子ども医療費の無料化については、今回の計画には盛り込まないという回答をしております。以上でございます。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。1-6 社会保障分野でございました。何か、ご質問、ご意見ございますか。</p>
委員	<p>(意見なし)</p>
部会長	<p>無いようですので、ここで健康福祉分野については区切りをつけまして、教育・文化分野へ移らせていただきたいと思います。事務局、お願</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

事務局	<p>いします。</p> <p>2-1 学校教育について、「6月10日資料①」では6件の意見、「6月10日資料②」では2件の意見がありました。</p> <p>No.19では、現状と課題について、自宅に近い小学校と別の小学校に通うため児童が踏切を渡ったり、幹線道路を渡ったりすることが不自然ではないかという意見と、少子化に伴い学校の統廃合を今後の10年間で考えていく必要があるのではないかというご意見でございました。回答といたしまして、指定校の関係を説明しておりますが、より近い隣接校への就学を希望する場合は変更が可能との回答をしております。次に、統廃合については、北名古屋市では0歳時からの人口が減っていないため、統廃合を今検討することは時期が早いと考えております。人口動向については、審議会でも議論がありましたが、今後お示しします。統廃合については、人口動向も注視しながら慎重に考えていきたいと考えております。</p> <p>No.20については、主要施策「社会を生き抜く力の育成」に紐付けておりますが、主な取組で、外国人の子どもへの日本語教育支援というのを入れているかどうか、というご意見につきましては、取組には記載しておりませんが、スペイン語の相談員が来校したりしております。また、市国際交流協会が、ボランティアによる日本語の指導を週に1回実施しております。そういったいろんな取組が進んでいますが、主な取組としては記載しないという対応の方向性としております。</p> <p>No.21について、主要施策「未来への飛躍を実現する人材の育成」に紐づけておりますが、文部科学省が示された学習指導要領等の改善及び必要な方策等によると、小学校の外国語教育の導入にあたり、外国語が堪能な外国語人材の活用や教材の開発整備などが必要と述べられており、その学習指導要領改定の時期であることを踏まえ、ALTの派遣を考えた方が良いのではないかと、というご意見でございます。それにつきましては、事業実施の中で検討しますとしておりますが、非常に大事なことと認識しており、対応の方向性として、「世界にはばたく人材の育成」、この言葉は北名古屋市の教育大綱の基本施策でもあります。対応の方向性では、事業レベルでの取組を紹介しておりますが、「小学校外国語活動研修会」、「小学校英語授業研修会」、「英語検定試験」などの取組を進める中で、ALTの派遣についても慎重に検討していきたいと考えております。</p> <p>No.22について、主要施策「地域とともにある学校づくり」について、地域の方々が講師となる取組ですが、自治会とともに学校づくりを行うという視点のご意見をいただきました。この意見については、前回の審議会、またその後の部会でもご意見をいただいているところです。</p>
-----	--

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

部会長	<p>回答の趣旨としては、「地域とともにある学校づくり」ということで、地域と学校が連携・協働を行うコミュニティスクールを実践していますので、ボランティアとの橋渡し役を担いながら、連携事業をさらに進めていきたいという回答としております。</p> <p>No. 23についても「地域とともにある学校づくり」の中で、地域と学校がとても大切というご意見をいただくとともに、学校とボランティア活動との連携もあってもよいのではないか、というご意見で、事例として師勝北小学校と防災ボランティアでの防災マップづくりにおいて、すごく生き生きと活躍したという事例を教えてくださいしております。この意見につきましては、既に計画に盛り込まれていますという回答をしております。今年度から16校に学校運営協議会、コミュニティスクールが設置され、同じ説明となってしまいますが、地域と学校の協働で進めていくというのがすごく大事と、市は認識しておりますので、その将来の地域を担う人材の育成を推進していきたいとしております。</p> <p>No. 24について、全体という括りにしておりますが、子どもを増やすとともに、子どもを人間性豊かに育成し、社会の常識を十分理解できる人材にすべきとのご意見をいただきました。これについては、市も同様の考えを持っている中で、重ねての説明となりますが、コミュニティスクールにより、子どもが大人と触れ合っ、学ぶ意欲や、たくましく生きる力が身につくように家庭と地域で教育力の向上を支援するという趣旨で回答としております。</p> <p>市議会の意見として、No.46となりますが、生活困窮者のこと<small>に</small>触れられ、スクールソーシャルワーカーの配置を施策とできないか、というご意見に対し、市も検討しているところですので、計画に盛り込む方向性としております。貧困対策は、市も重要と考えており、セーフティネットとして、既に小中学校でアフタースクール教室を実施しています。主要施策として「学びのセーフティネットの充実」を柱立てしており、アフタースクールとスクールソーシャルワーカーの配置を盛り込みたいという方向性としております。</p> <p>No.47について、主要施策「学びのセーフティネットの充実」として、経済的な支援となりますが、無償化へのご提案ですが、それを総合計画に盛り込むことは困難ですと回答しております。財政状況の関係もありまして、国や県の施策の動向を注視し、充実を図っていきたいという回答をしております。以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。学校教育の分野につきまして、委員の方からと市議会の意見をいただき、その対応の方向性について、今、事務局から説明を受けました。ご意見、ご質問ございますか。</p>
-----	---

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

I 委員	<p>今の説明でとてもよく分かりました。私自身も大学で、師勝北小学校の学校運営協議会の委員を務めさせていただいており、以前と比べて協働という意味で、積極的に各学校が取り組んでみえるということが分かりました。</p> <p>今、英語教育への取組、それ以外の項目も含め、これまで学校運営協議会を先進的に取り組んでこられたということですので、これからのことを考えますと、この学校運営協議会を基に、協働に全面的に取り組んでいくというような強い姿勢を文面にも挙げてもいいのではないかなという気がします。今後の施策、いろいろな取り組みを考えるなかで、そういった方向を示されると、学校もそれに基づき、いろんな考えを出してくるのではないかと思います。</p>
部会長	<p>教育長お願いします。</p>
教育長	<p>ありがとうございます。北名古屋市が行っているコミュニティスクールは、当初から「北名古屋市版コミュニティスクール」と呼んでおりまして、学校運営協議会と地域ボランティアが一体的になって運営していくというのが、北名古屋市の学校運営協議会、コミュニティスクールの特徴です。</p> <p>実は、それが全国に標準化になりまして、今後、多くの自治体がそういう方向性を狙っていくということになっていくと思います。学校運営協議会の設置については、おそらく5年後ぐらいには、「すべての学校が設置すること」というような規定に法律が変わると思います。今のご意見のように各学校がもっと確信をもって取り組めるようにしたいと思いますので、ご意見を参考にさせていただきます。</p>
部会長	<p>ありがとうございます。他にご意見ありませんか。</p>
J 委員	<p>いろいろなところに「地域」という言葉があります。地域とは何を指しているのか、実際、学校周辺、それぞれの自治会などさまざまなものがありますが。個々の団体では、たいていできると思うのですが、大きな団体は、自治会に対して箱物などを借りるにしてもそうですし、そういうことをどういう捉え方をするか。それが一番、重要ではないかなと思います。</p> <p>この地域とは、やはり就学している親御さんぐらいの範囲を指しているのではないかと、と思いますが、本当の地域というのは、もっと幅広く、自治会関係も各種団体も一緒になって行うのが「地域での学校づくり」ではないかなと思いますが、いかがですか。</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

<p>教育部副参事</p>	<p>コミュニティスクールは、今16校が、この4月からスタートしました。地域というように漠然と言うてしまうと、なかなか分かりづらいと思うのですが、北小学校や東小学校のように、学校が、例えば保護者だけではなく自治会と上手く連携を取りながら、双方がやっているところは小学校の中でも上手くいっているほうです。保護者は、やはり子どもが卒業してしまうと保護者も卒業してしまいます。その中でも残っていただけの方、校区の子どものためにという認識がある方は、少しずつ残っていただけています。一方で、高齢化という問題もありますが、現状はそういったところです。</p> <p>地域とのネットワークが密になってきた状態ではありますが、いま過渡期にありますので、今後スムーズに地域と結びついていくと、今言われたように、校区とか自治会とかが一緒に盛り上がっていくと思います。また、校区によっては、保護者でなくても、「私は学校の子どものために骨折ります。」と言われる意識の高い方がいる地域、まだそういう方がいながらも発掘できていない、ネットワークができていないというところもあります。今後、コミュニティスクールをどうPR、周知していくかということが、課題としてあります。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>教育長</p>	<p>補足させていただきます。今、地域と仰いましたが、それぞれの学校区と自治会というものは、学校によっては、範囲が違っている場合があります。クロスはしていますが、イコールにはなっていません。それから地域の捉え方として、市全体という考え方があります。今、北名古屋市のコミュニティスクールで協力していただいているボランティアの方の活動は、市全域です。A小学校区に住んでおみえにならない方でも、そういう力を持ってみえる方がいれば、ボランティアの学校運営協議会のネットワークの中でお互いに連携をとって、力を貸していただけるような、そういうネットワークが作られています。その中で意見交換をされて、足りない部分は別の小学校区から来ていただいて支援いただく、また逆の場合もあります。</p> <p>よって、「地域」というのは、大きく見ると北名古屋市全部、或いは愛知県かもしれませぬ。他から来てもらう時も人の人脈をたどって来ていただくケースもありますので、そういうような人のネットワークで小学校区、或いは中学校区が基本ですが、そこで足りないところは市全体、或いはそれ以外のネットワークを通して支援をお願いしている状況です。</p>
<p>C委員</p>	<p>今のお話ですが、地域では、学校のエリアと自治会エリアが全くバラ</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

	<p>バラのところがあり、なかなか学校も上手くいかない部分はあると思います。今すぐとは言いませんが、自治会が小学校単位でコミュニティができてくれば、学校と一体となっていていろんなことができてくると思います。</p> <p>名古屋市では、全小学校単位にコミュニティスクールができていて、そのコミュニティの中でいろんな学校の問題、その他地域の問題が全部解決できるようになっていて、いいなと思います。将来、北名古屋市が名古屋市と合併する場合でもそういう形になっていくと思いますので、今からそういうことも考えて検討していかれたらいいかと思います。</p>
部会長	ありがとうございます。
C委員	違う意見いいですか。
部会長	はい、お願いします。
C委員	<p>先ほど、社会を生き抜く力の育成で、外国人の子どもの教育ということが、主な取組に記載されていませんが、私も日本語ボランティアで学校へ行っています。子どもたちは、徐々に会話ができるようになってきても、漢字がうまくできません。</p> <p>もう一つは、両親が日本人でない場合、家庭の会話の中で日本の文化のことがよく分からないのです。この地域に、これからもずっと住んでいくのであれば、もっと日本の文化やいろんなことが分かるように、もっと教えていくことが大切ではないかと思います。この中に、外国人の教育とか支援、そういう取組が入っていない、ここに載せていった方がよいのではないかと、というのが私の意見です。</p>
部会長	教育部、ご意見に対しましての回答をお願いします。
教育長	<p>方向性を申し上げますと、ご意見のとおりになった方がよいと思います。しかし、全体の中で取り上げるべきかどうかということで考えますと少数のため、数の上から判断しますと、総合計画に挙げるべきところまでいってないのではないかと思います。しかし、だからといって、おろそかにしている訳ではありません。資料にも対応の方向性を示させていただいたとおり、ご意見の取組は着々と進めております。</p>
C委員	<p>話は分かりました。それがもっとこれから増えてくると思いますので、そういうことがやれるような体制とか気持ちがあればいいと思います。結構、問題のある子が増えてきていると思いますので、こればかり</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

<p>部会長</p>	<p>じゃなくて、いろいろ大変なことが多いと思います。</p> <p>ありがとうございます。他にどなたかございませんか。 特に無いようですので、2-2の生涯学習に進みます。</p>
<p>事務局</p>	<p>先に少しご案内しますが、6月10日資料②については、この後の施策について意見がございませんので、資料①のみの資料を見ていただくこととなりますのでよろしくお願ひします。</p>
<p>事務局</p>	<p>2-2 生涯学習について、「6月10日資料①」で9件の意見がありました。</p> <p>No.25、現状と課題で、数点の視点を示している中で、高齢者の学習機会を充実し、高齢者が生きがいを持って健康生活を送れるよう、また地域社会で活躍できる仕組みを、追記する必要があるのではないかとというようなご意見につきましては、計画に盛り込み、ご指摘の部分を勘案し、表記を修正し、次回資料でお示ししたいと思います。</p> <p>No.26について、主要施策「学習機会の充実」の主な取組に、社会教育関係団体が行う講座の支援、会場及び広報等、こういった項目を盛り込んではどうか、というご意見に対し、対応の方向性としては、既に計画に盛り込まれておりますとしており、社会教育関係団体の活動に要する経費に対し補助金を交付するなど、団体の円滑な運営についての支援をお示ししています。</p> <p>No.27について、主要施策「学習機会の充実」の括りにしておりますが、別の資料で委員の皆さんには配布しておりますが、総合計画の策定にあたり、市民団体の方にヒアリング行ったところ、「使える場所が無い」とのご意見がありました。この意見に対し、図書館の会議室を利用できれば良いのではないかと、というご提案をいただきました。この提案については、既に計画に盛り込まれているとの回答とし、図書館の会議室がどのように使っているかを説明させていただいております。図書館の会議室については無料とし、併せて図書館に関連する事業を行う団体等及び市が主催する事業に提供していますので、図書館の機能を高めていくように会議室は使っているところです。</p> <p>No.28は、主要施策「生涯学習の基盤整備」について、文言の修正の指摘としてもう少し強い表現にしてはどうか、というご意見につきましては、今回の総合計画では、検討という表現に留めたいとする回答の方向性としております。また、今後、事業実施の中で官学民連携を考えていきたいとしております。</p> <p>No.29も、主要施策「生涯学習の基盤整備」の主な取組に、「自治会の施設の活用」という項目を追加したらどうか、という意見についての</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

回答としては、計画に盛り込むことは困難な状況です。自治会の施設は、自治会管理のため、市の施策の中へ追加することは難しいと考えております。

No.30についても「生涯学習の基盤整備」として、図書館の関係についての提案ということになります。もっと機能の多様化を図ってはどうか、という意見です。様々なサークルの関係のチラシを置いたりなど、図書館の機能をもっと充実すべきではないかというような意見となっております。この意見については、既に計画に盛り込まれておりますと回答しておりますが、図書館の中で様々な事業を進めるなかで、広報紙面と連携し、本の紹介の取組を開始したり、市内のサークルやボランティア団体、名古屋芸術大学の学生の方との連携など関わりを持っております。そういったことで図書館の機能については、ご提案いただいたようなことも踏まえ、既に実施しているとの主旨の回答としております。

No.31は、取組指標の関係で、図書館入館者数が目標値となっているが、図書館内に静かさを求める声を忘れないで欲しい、というご指摘です。回答としては、既に計画に盛り込まれておりますとしており、図書館に対する多様なニーズを把握するため、利用者アンケートを実施しており、居場所を求める声は多いので、アンケートの結果も踏まえ、充実していくこととしております。よって、図書館の入館者数を増やしたいという指標を設定しています。

No.32は、ご提案として捉えておりますが、「北名古屋市民生涯大学」というネーミングをいただき、意見の概略としては、老いも若きも学びたいときに学べる。学べるような生涯学習の場、こういったことを創設してはどうか、というようなご意見です。そのため新しく創るのではなく、今いろいろ実施している講座、教育委員会主催の講座とか、そういったものを「大学」というようなネーミングの一括りにし、システム化してはどうかというご意見です。一般教養的な講座だけではなく、専門的に講座で深く学べるような選択肢をもっと設けた方が良いのではないかと。また、昼間だけではなくて、夜間、早朝での展開を考えてはどうか。最終的には、「生涯大学」といったネーミングで高齢化社会を迎えるにあたって、もっと元気になる地域にしてはどうかというようなご提案でございました。

こちらについては、事業実施のなかで検討しますという対応の方向性としておりますが、ご提案はすごく参考になる前向きなご意見だと感じております。様々な生涯学習の事業を進める中で、もっと内容の濃い、レベルを上げた講座を企画していきたいと考えているところで、事業実施の中で検討したいご意見と考えております。

No.33について、図書館の活性化というご意見で、図書館は老若男女が集まりやすく、朝早くから夜遅くまで健全な交流の中心であり、こう

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

	<p>いった場合は、図書館の他に無いため、その中で、他の市町でも取組が始まっておりますが、カフェの併設、事業レベルでは、読書会、大人のための読み聞かせ会、英語での読み聞かせ会のご提案をたくさん挙げていただいております。北名古屋市の地域の活性化を目指し、図書館を活性化してはどうか、というご意見でございます。この意見についての回答として、既に計画に盛り込まれておりますとしておりますが、図書館では様々な事業を進めております。例えば、「図書館は玉手箱」というようなネーミングの講座、あとマジックショー、居場所としての図書館の機能を保有し、生涯学習の場としての機能を高めていこうとしておるところでございます。また、先の意見でも取り上げましたが、アンケート調査を実施し、利用者の方の意見と回答との整合を図り、図書館の多機能化について、市民ニーズを十分に把握し、北名古屋らしい、このまちに必要な図書館を目指していきたいというよう方向性を持っております。以上でございます。</p>
部会長	<p>生涯学習の分野でございますが、只今の説明につきまして、ご質問やご意見がございましたら、ご発言をいただきたいと思っております。</p>
C委員	<p>学習機会の充実について、社会教育団体への活動助成となっておりますが、この助成というのはお金だけのことですか、この活動助成とはどういう意味ですか。</p>
教育部次長	<p>ご質問について、講座の支援として、会場や広報をとということです。社会教育団体に限らず、いろいろな分野で多くの団体が生まれ、増加しております。そういうような中で、会場を取るということが問題になっております。使用料の見直し、或いは減免などの全庁的な課題などもございますが、活動助成として、会場に関する支援を載せることは、難しい状況です。</p> <p>また広報に関しては、今までどおり公民館や文化勤労会館でチラシなどの配布、或いは市広報紙の規定に沿って活用していただくということです。ここの助成とは、補助金による助成に重きを置いておりますが、要は広く支援という意味合いも含んでおりますので、そのように解釈していただければ、ということをお願いしたいと思っております。</p>
C委員	<p>支援とか助成というと分からないですが、この学習機会の充実という主要施策で、会場は支援できないというのは無償では出来ないという、今の答えはそのようなことですか、有償ならいいという。</p>
教育部次長	<p>いろいろな分野の団体が会場を利用されておりますので、社会福祉団体</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

	<p>への会場支援だけを載せるというのは、ちょっと無理があると思っております。</p>
C 委員	<p>言葉を計画に載せなくても良いと思いますが、支援するというのは、お金だけではなく、大きな意味での支援という意味ですね。お金よりはそういう場所と広報です。市民に広めて提案をする機会、現在やられていることに乗っかっていくという、そういう事を含めた支援ということですね。</p>
教育部次長	<p>今までどおり助成し、支援していくという意味合いでお願いしたいということです。</p>
C 委員	<p>会場を使うのは必要な経費ですので、決まった料金をとることにしてはそのままがいいと思います。特にPRについての支援、同じようにそういう団体なども一緒にPRをして貰いたいと思います。</p>
教育部次長	<p>PRは、今までどおりPRしていきたいと考えます。広報、メディア、その他の媒体、或いは各施設でチラシを置いていただくなど、これまで通り利用していただければと思っています。</p>
C 委員	<p>これまで通りだとページ数に合わないから駄目だとか、ページが溢れてしまうから載せられないというような回答が結構ありますので、そのページが増えることで予算が増えてしまい、できませんという回答があります。</p>
教育部長	<p>市広報紙の関係につきましては、広報部局で、市の後援を得たイベント等を載せるというような決まりがありますが、各団体と連携を密にしながら、よりたくさんの情報が広報できるように考えてまいります。</p> <p>また、会場につきましても、社会福祉関係団体に関しましては、ある程度の特典があり、もちろん全部ではないのですが、何回か回数を決めただなかで減免し、内規の中で可能な範囲で優先的に対応させていただいているところが現状でございます。</p>
C 委員	<p>はい、そういう広報のときに、ページの中に入れてもらいたいということです。例えば、別にチラシを1枚入れたとすると、印刷料が何十万もかかりますし、折込み手数料も何万円という費用が発生する訳です、たった1枚広報に織り込んでもらうだけで。そういう費用は、大きな団体にとっては楽なものだと思いますが、小さな団体だとお金がなくてできませんので、生涯学習の分野で、そういうものが広報できる部分の中</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

	<p>に1ページでも半ページでも4分の1でも入れてもらうことができれば、そういうお金を使わず、皆さんに広めることができるという、そういう意味での支援をお願いしたい。</p>
<p>教育部次長</p>	<p>先ほども説明しましたように、市広報では、決めがございますので、そういうところを私どももご提案をさせていただいたなかで、例えば、後援をとっていただければ、当然紙面に持つていくことは可能になります。そういった情報をお伝えしながら進めていきたいと思いますが、今のご発言は、C委員がされている活動の広報をもっとして欲しいということですか。</p>
<p>C委員</p>	<p>ちょっと言い方が悪かったのですが、この広報というのは、「広報北名古屋」の紙面に入れてもらうという意味ではなくて、生涯学習で発行している冊子とかの中に、記事を入れることができないかというのが、私の質問です。</p>
<p>教育部長</p>	<p>先ほど担当次長がお伝えしましたが、生涯学習課の発行物は、生涯学習課の講座の内容ですから、課としても予算の限りで作成しておりますので、特定の団体のみ載せるのは難しいところです。しかし、そこに入れ込むのではなくて、生涯学習の窓口に置くとか、市広報情報の所に置くということは可能となります。</p>
<p>C委員</p>	<p>そこを狭く、生涯学習団体だけではなく、社会教育団体、また、それに類した団体とかも含め、もっと広く、活動の情報が載せられるようになればと思います。</p>
<p>教育部長</p>	<p>今の状況では、C委員のご提案の内容は、ちょっと難しいかなと思っておりますが、今後、いろいろな方法がないかというところは検討してまいりたいと思います。</p>
<p>C委員</p>	<p>よろしくをお願いします。</p>
<p>部会長</p>	<p>他にどなたかおられませんか、本日、まだ意見や質問等ご発言されていない方で発言していただければと思いますが、無いようでしたら、次へ進ませていただきます。</p>
<p>事務局</p>	<p>2-3 文化・芸術は、「6月10日資料①」で2件の意見がございました。 No.34は、協働の考え方への意見です。市民の役割について、最後の</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

	<p>文面を、「活動を支えます。」を、「活動を行います。」に修正してはというご指摘をいただきました。この文面の前に、文化芸術の鑑賞や活動に関わりをもって、地域に根ざした文化芸術活動と、しておりますので、「支えます。」が適当と考えております。</p> <p>No.36は、ご提案と捉えております。北名古屋市の特性として、名古屋芸術大学の存在がすごく大きく、また新たな可能性も期待できることから、名古屋芸術大学の卒業生の方が、卒業後も北名古屋市民として創作活動を継続できるような仕組みができれば、北名古屋市の活性化につながるのではないかと考えております。また、卒業生の方が、自分の作品を並べて売れるような仕組みができれば、北名古屋市に人の集まりも期待でき、まちの活性化にもつながり、芸術の薫るまちづくりにつながっていくのではないかと考えております。</p> <p>こちらについては、壮大なご提案ですが、対応の方向性としては、計画の主旨を反映したいと考えており、現状、市は名古屋芸術大学と様々な分野で連携し、数多くの事業を展開しております。今回は生涯学習の施策での回答としておりますが、一例を挙げますと、アートプロジェクトとして学生の作品の展示、芸術の道をテーマとし、学生の彫刻作品を歩道の路面に設置したアートエリアロードなど、名古屋芸術大学の強みを活かした取組を展開しております。今回のご提案を踏まえ、さらに名古屋芸術大学との連携事業を進め、北名古屋市の特性として事業を展開してまいりたいと考えております。以上でございます。</p>
部会長	<p>ありがとうございます。只今の説明につきまして、ご質問やご意見がありましたら、ご発言をよろしく申し上げます。</p>
C委員	<p>「活動を支えます」と「行います」の違いについて、「活動に関わりを持って」とあり、地域に根ざす文化に関わりを持っていくので、活動を支えるという表現よりも、そこで行っていくのが、市民の役割ではないかと思えます。</p>
部会長	<p>事務局、回答してください。</p>
事務局	<p>先ほどから、目指すまちの姿についても、状態の表現に関するご意見がありますが、市民の役割として「行います」というと、すべての市民が行うということが現実的ではないため、文化芸術の事業にもっと関わっていただくことから始めるべきであると考え、市民の役割として「活動を支えます」という表現に留めたというのが、最初の成り立ちでございます。</p> <p>それを「活動を行います」と修正することについては、今の段階では、</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

C 委員	<p>「支えます」の方が表現としては適当でないかと回答をしたところですが、しっくりこないというようなご指摘ですか。</p> <p>そうです。</p>
H 委員	<p>その部分そうですが、「施策がまめぎすまちの姿」における「となっています。」という表現の仕方、ずっと読んできて、私は資料で示されたとおり「なっています」、「支えます」という表現の方が、時間の流れや様子がよく想像できるので、この感じがいいなと私は思いました。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。委員の皆様の感じられること、いろんな意見があると思います。他の部会からも、おそらく多様な意見が出ていると思いますので、他の部会の意見を集約し、この表現については改めて説明させていただきたいと思っております。</p>
部会長	<p>他に何かございませんでしょうか。</p> <p>特に無いようですので、次に移ります。では、続きまして、スポーツ・レクリエーションについて、よろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>2-4 スポーツ・レクリエーション生涯学習について、「6月10日資料①」で4件の意見がありました。</p> <p>No. 36は、現状と課題について、社会体育施設が充実を求める意見とし、地域における活動場所、特に日中の活動場所がない、というご指摘をいただいております。例えば地域には、公会堂があっても運動するまでの広さは無いというようなご意見です。この意見については、ご指摘のとおり、日中に使用できる屋内運動施設が特に不足しておりますので、今後、スポーツ団体とともに事業実施のなかで検討していきたいと考えております。</p> <p>No. 37については、主要施策「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」に列記された文面についてのご指摘です。「健康維持のために気軽に楽しく」という表記に修正してはどうか、というご意見について、文面を修正し、計画に反映させていただきたいと考えており、次回の会議で、修正後の文案をお示しします。</p> <p>No. 38も主要施策「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」の主な取組についてのご質問です。「市民体育祭」や「北なごやふるさとマラソン」は、スポーツ活動の一種として考えるのかというものです。このご質問については、ふるさとマラソン等のイベントは、全国大会等出場者への激励金支給の制度と併せてスポーツ活動に位置付けているため、主な取組に挙げていることをご理解いただきたいです。</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

<p>部会長</p>	<p>No.39は、資料のデザインの関係です。前回の会議資料で、カラー印刷で記入例をお示ししたなかで、ピンク地で記入例をお示しました。その色合いが読みづらいとのご指摘ですが、最終的に冊子として印刷する段階で、デザイナーと協議をし、より見やすいデザインにするよう工夫してまいりたいと考えております。以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。只今、事務局から説明いただきました、スポーツ・レクリエーションにつきまして、ご質問やご意見がございましたら、ご発言いただきたいと思います。ございませんか。</p>
<p>I 委員</p>	<p>学校教育との絡みになるかと思うのですが、直ぐにということではありませんが、今、学校の部活動の問題が徐々に変わりつつあるのですが、今後、更に変わってくるだろうと思います。今現在、北名古屋市で行われているいろんなスポーツ活動への中学生の参加というのは、たぶん少ないのではないかなという気がします。今後、部活動が学校から離れ、いわゆる社会スポーツに、徐々に移行していくという可能性が高くなると思っています。</p> <p>その様な中でいわゆる中学生のスポーツの受け皿、そういったことをどの様にしていくか、今後、どの市町村でも考えていかななくてはならない課題ではないかと思えます。競技スポーツの部活動から離れ、社会スポーツに移行するのに、どんなことを考えていかなければいけないことについて、どの様にお考えでしょうか。</p>
<p>部会長</p>	<p>教育部スポーツ課長いかがですか。</p>
<p>スポーツ課長</p>	<p>今ご意見のありましたように、中学生のスポーツ活動の減少ということで、体育協会においても同じ様なことが議論されております。中学生に限らず、小学生のスポーツ少年団などの活動回数が減っています。この原因はいったい何だろうか考えると、例えば部活動では、各学校の顧問の先生がいないということで、活動が縮小、減少傾向になっていることも1つの原因として考えられます。体育協会としても、地域貢献として、そういったことに対し、何か役に立てないかということを考えております。</p> <p>現在、取り組み始めた活動としては、指導者の資格を取ることにに対し、助成しています。学校との連携のもと、指導者を増やし、例えば部活の補助として顧問を派遣できないか、そういった取組を徐々に始めているところです。</p> <p>社会スポーツと学校スポーツの連携を図りながら、スポーツ人口の増進につなげていきたいと考えております。</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

部会長	<p>よろしいですか、ありがとうございました。他にございませんか。</p>
J委員	<p>質問ですが、学校の先生方もいろいろ転勤されていますが、ある時期にその種目を教える先生がいなくても、例えば新しい先生が赴任されて、その種目を教えることができる場合、種目は復活できますか。</p>
教育長	<p>可能です。ただし、その学校の中での教員を始め、学校組織の中で合意が必要となります。しかし、指導者がいなくなったから、その種目を無くす、という問題ではありません。基本的には、やはり子ども達にとって何が一番必要なのかという視点で、部活動の種目を選択されていると思います。選択する子どもたちが多くいるということで、そこに指導の得意な先生がいるかいないかは、後回しにしています。</p> <p>今、北名古屋市で起こっている部活動を縮小したり、無くすという問題に関しては、参加者が少ないことが一因となっており、その部活動をどう維持できるのかどうかということが問題になっています。指導者が変わったからということで、部活動を無くすということはありません。ただし、そのような場合に、やはり地域社会から支援をいただいて、今までと同等、あるいは今までに近い指導ができるようにはしたいなと思っていますし、そういうところでご助力をいただいているケースもたくさんあります。今、スポーツ庁では、新しい展開を一生懸考えられておりまして、おそらくこの1、2年の間に新しい展望が開けてくると思います。</p>
部会長	<p>他にございませんか。無いようですので、次に移らせていただきます。</p>
事務局	<p>最後となります。「6月10日資料①」の30ページをご覧ください。分野に属さない意見として取り扱っておりますが、審議会で説明があった以外の項目を数点説明させていただきます。</p> <p>No.2はご指摘となります。「市民意識調査の結果」の資料の項目の中で、「高速道路のインターチェンジが近いなど、交通が便利である。」の表現について、北名古屋市にインターチェンジがあるので、今後のアンケートでは修正すべき、というご指摘については、既にアンケートをとってしまった項目のため、対応が困難ですが、今後のアンケートでの設問を設定時に変更します。</p> <p>No.4は、複数回ご意見のある表記方法について、まちの状態「何々しています」という表記方法に違和感があるというようなご意見をいただいておりますので、既に説明をさせていただきましたが、再考し、方向性をお示ししたいと思っております。</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

	<p>No.6については、「連携」という言葉がたくさん出てきており、少し硬いイメージ、また、義務的にも感じてしまうというご意見でした。この意見については、連携という言葉は、横断的な取組として重要なワードであるため様々な取組に使っていますが、全体の施策を再度見直し、別の表現の方が分かりやすい場合に、適宜修正していきたいと考えております。</p> <p>No.7からNo.9については、表記方法や用語解説についてです。総合計画は、60歳代の方、さらに上の方も見たりするので、あまりカタカナ表記が良くないのではないかと、表現の仕方、会議の中で質問がありましたがカタカナ表記の分かりにくい部分、これらご指摘については、資料を精査いたします。また、用語解説をより分かりやすくし、市民の方が読みやすい総合計画を策定してまいりたいと考えております。以上でございます。</p>
部会長	はい。B委員どうぞ。
B委員	意見についてですが、高速道路のインターチェンジと記載していますが、出口のことを指していることを補足します。
部会長	<p>その他ご質問、ご意見ございましたらご発言をいただきたいと思いますが、どうでしょうか。</p> <p>それでは無いようですので、議題は、これで終了させていただきます。次第3のその他について、事務局説明してください。</p>
事務局	<p>3 その他について</p> <p>いろいろご意見ありがとうございました。今後、今回の議論によっての変更する点、会議での議論を踏まえまして今回提出されていない箇所での変更点も出てくると思います。その点については、次回の会議でどこを変更したか、どのように修正したかをお示ししたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>では、その他について、2点お願いさせていただきます。</p> <p>1点目として、審議会でも会議録をお渡ししましたが、この福祉教育部会についての会議録を机上に配布させていただいております。修正点等お気づきの点がございましたら、6月16日までに経営企画課にお電話などで教えてください。なお、審議会と同様に、市ホームページで公表する場合には、委員さんのお名前は伏せて公表させていただくこととしておりますが、本日お渡しした会議録には、お名前が入っている方が分かりやすいと思い、お名前を入れております。</p> <p>2点目として、次回の部会の開催通知文について、部会長のお名前で</p>

第2回北名古屋市総合計画審議会福祉教育部会 会議録

	<p>通知文を机上に配布させていただいております。日時は7月1日(土)午後1時30分から、この場所で開催させていただきます。こちらは委員の皆様にご提出いただいた日程確認シートにて調整させていただいたところ、7月1日の土曜日に参加いただける方が一番多かったため、この日に設定させていただきましたので、ご理解いただきたいです。</p> <p>議題は、本日の修正事項をお示しします。なお、お持ちいただく資料として、誠に恐縮ですが、資料1と2と3、桃色と黄色と水色の資料をお持ちいただきたいです。時間は、午後1時30分からでお願いします。</p>
部会長	ありがとうございました。その他について、事務局から説明をいただきましたが、質問がありましたら、どうぞ。
委員	(質問なし)
部会長	その他意見も無いようですので終了といたします。 第2回審議会部会については、これで終了といたします。長時間にわたり、慎重なご審議、ご協力ありがとうございました。